

氏名 西 原 孝 雄

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 1046 号

学位授与の日付 昭和54年 6月30日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者  
(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 肝疾患時の胆汁酸と bilirubin に関する研究

第一編 肝疾患時における胆汁中胆汁酸と bilirubin 3分画の臨  
床的意義第二編 肝疾患時における血清中胆汁酸と bilirubin 3分画の臨  
床的意義

論文審査委員 教授 水原 舜爾 教授 大藤 真 教授 木村 郁郎

### 学位論文内容の要旨

胆汁酸と bilirubin はともに肝臓で生成、抱合されて胆汁中に排泄される。肝疾患時に生ずる胆汁酸と bilirubin の代謝障害が疾患により時期により差があるか否かについて検討した。また胆汁酸測定法についても改良を加えた。第一編では胆汁を用いて胆汁酸と bilirubin を分画し、一般肝機能検査並びに肝生検組織像との関連を求めた。胆汁酸代謝と bilirubin 代謝とはほぼ同程度に障害され、明らかな解離はみられなかった。肝機能検査とは疾患により時期により相関するものがあった。胆汁酸の amino 酸抱合型の変化は肝組織像で肝細胞壊死、Kupffer 細胞の肥大増殖例に多くみられた。第二編では黄疸血清を用いて第一編と同様に検討した。体质性黄疸を除き、血清でも胆汁の場合と同じく両者の障害度はほぼ等しいことが明らかとなった。肝機能検査との相関は胆汁の場合と同一結果で、全疾患、全期間を通じての一定の関連は認め難く、胆汁酸上昇例の肝組織像も胆汁の場合と同様であった。これらの成績より胆汁酸の変動をみると肝障害の良い示標となるものと考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は各種肝疾患に於ける胆汁中及び血清中のビリルビンと胆汁酸を測定し、その臨床的意義を検討したもので、有意義な業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。